

# CASBEE® 京都 戸建-新築

## 標準システム 評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE京都 戸建-新築(2011年版)

■使用評価ソフト: CASBEE京都 戸建-新築2011(v1.1)

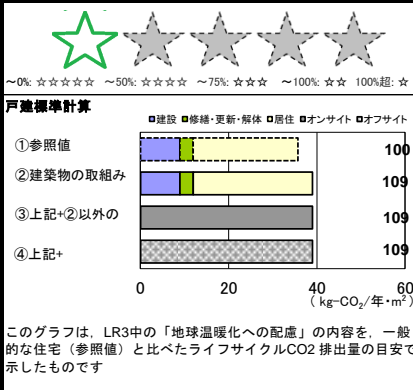
1-1 建物概要			1-2 外観		
建物名称	加藤邸		仕様等の確定状況	建物の仕様	確定
竣工年月	2014年11月			持ち込み家電等	確定
建設地	京都府京都市		<備考>	外構の仕様	一部確定
用途地域	第一種低層住居専用地域				
省エネルギー地域区分	IV				
構造・構法	木造・伝統構法				
階数	平屋建				
敷地面積	812 m <sup>2</sup>	確定	評価の実施日	2013年12月10日	
建築面積	122 m <sup>2</sup>	確定	作成者	株式会社クアニア 西巻優	
延床面積	114 m <sup>2</sup>	確定	確認日		
世帯人数	4人		確認者		



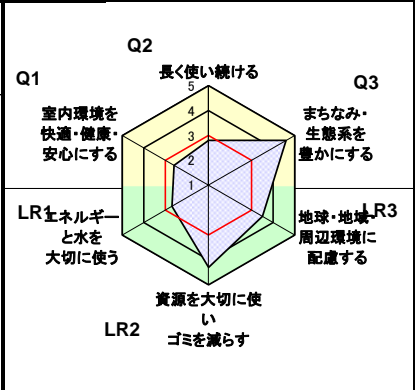
### 2-1 すまいの環境効率 (BEEランク&チャート)



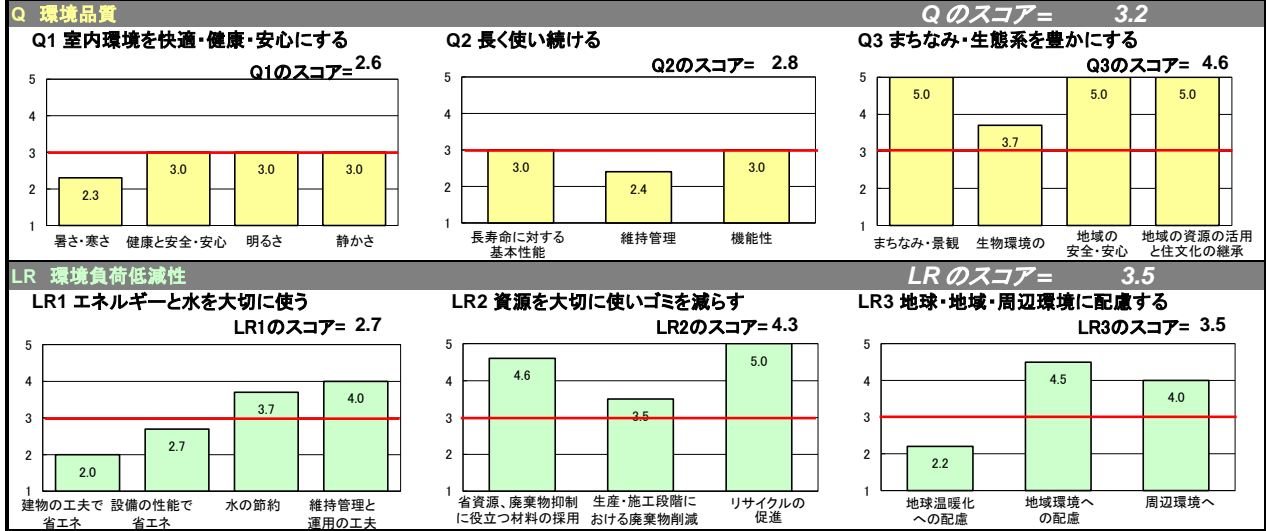
### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)



### 2-3 大項目の評価(レーダーチャート)



### 2-4 中項目の評価(バーチャート)



### 3 設計上の配慮事項

総合	その他
<p>●周辺には田畑や山林が広がり、北側には河川が流れる。豊かな自然環境を保持している敷地である。●最大の特徴は、石の上に柱を建て、竹下地の上に土を塗った伝統構法で建築すること。極力自然素材のみで計画し、自然に還る家として設計した。</p> <p>●伝統的手法の保存、住文化の継承を図り、壁塗りに塗装では施工参加による工事を行う。●周囲の豊かな環境を室内に取り込むべく、通風や日射に配慮すると同時に、既存樹木の保存等を通じて、周辺環境に対する配慮も行った。</p>	<p>●住まい手である施主と綿密なやり取りの上計画を行い、住宅への理解を深め、住まい方に合った設計を進めてきた。施主にとっての快適性を追求し、その結果が長く使い続けることに繋がると考える。●本計画は京都市による「平成の京町家」に適合するものであり、伝統構法は守りながら、現代の住環境に合わせた設計を行っている。</p>
<p><b>Q1 室内環境を快適・健康・安心にする</b></p> <p>●下地材も含めて可能な限り自然素材を使用し、土壁や無垢の木材等による快適性を享受し、化学製品によるシックハウスアレルギーを防ぐ計画とした。●土壁による断熱性能は期待できないが、優れた熱容量を生かして温熱環境の安定性が保てる。</p>	<p><b>Q2 長く使い続ける</b></p> <p>●伝統構法の特徴は、柱の根継ぎや土壁の塗り替え等、部分的な補修が可能であること。構造材は基本的には現しとし、点検が容易となるよう配慮した。●一部の部屋は、将来一体として使うことを前提に乾式壁で計画し、改修しやすいように配慮した。</p>
<p><b>LR1 エネルギーと水を大切に使う</b></p> <p>●極力機械設備に依存せず、自然エネルギーを活用するよう計画した。北側を流れる川の影響と思われる北からの卓越風向に配慮し、南北面に開口部を設けた。軒の出は90cmを確保し、サンルームやRoom1の南北面の掃き出し窓には庇を設置する。●電気蓄熱暖房機やエアコン用の電源を計画し、必要に応じて設置する。</p>	<p><b>LR2 資源を大切に使いゴミを減らす</b></p> <p>●前述の通り、主に自然素材で構成される建物であり、産業廃棄物の少ない土に還る建物であり、環境負荷低減を実現している。●使用する材料は基本的に国内産材を採用する。木材や竹、土等、日本古来の資源を使用することで、資源を活用する産業を守り、運輸による環境負荷低減にも配慮している。●古</p>
<p><b>LR3 地球・地域・周辺環境に配慮する</b></p> <p>●建築地以外には基本的に既存と同様の土敷きとし、自然を残すよう計画している。建築物の素材から計画のボリューム・配置におけるまで、環境不負荷の少ない建築物である。●敷地の条件も十分に考慮し、地域と周囲の環境が変化しない様に配慮した。隣家の開口部の位置等も確認し、設備機器や開口</p>	<p><b>Q3 まちなみ・生態系を豊かにする</b></p> <p>●外観は周辺の景観と調和するよう同様の意匠とした。ポリュームの小さな平屋建かつ敷地周辺にも空地を計画し、自然豊かな環境を損ねず地域と調和するよう配慮している。●外構も周辺環境を阻害しないよう配慮し、見通しや空地を確保している。</p>

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (すまいの環境品質)、L: Load (すまいの環境負荷)、LR: Load Reduction (すまいの環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (すまいの環境効率)

■CASBEE全体の表記ルールに従えば、CASBEE戸建-新築の場合、BEE<sub>h</sub>、Q<sub>h</sub>、LR<sub>h</sub>などとすべきであるが、本シート上では簡略化のためHを省略した

■「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは住宅の部材生産・建設から居住、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量であり、ここでは住宅の寿命年数と延床面積で除した値を示す

■評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q<sub>2</sub>、LR<sub>h1</sub>中の住宅の寿命、省エネルギーなどの項目の評価結果から自動的に算出される(「戸建標準計算」の場合)

■ライフサイクルCO<sub>2</sub>の算定条件等については、マニュアルおよび「CO<sub>2</sub>計算」シートを参照された